

ジャーナリズム史Ⅱ 2011-3

太平洋戦争とジャーナリズム

6. 軍部の言論干渉：思想、情報、言論の統制化が始まる

- 昭12.7 日中(支那事変)戦争の拡大
 - 7.7 蘆溝橋事件
 - 軍機保護法改正：陸海軍大臣の報道許可
- 昭13 戦時体制の強化
 - 思想統一 左翼理論指導者層の一斉検挙(2)
 - 国家総動員法(4)
 - 用紙制限：減ページ 広告、夕刊の制限
- 昭15.2 斎藤隆夫(立憲党)「反軍演説」：国家百年の大計誤る 昭6にも「肅軍演説」
- 昭16 **大政翼賛会 政党解散 政党政治の終焉**

齊藤隆夫 演説

<http://video.google.com/videoplay?docid=-6299933364322269110&hl=en#>



- 肅軍演説:1936 (昭11)
- 反軍演説:1940 (昭15)
- 国民に多大の犠牲を強いている？
- 日中戦争の目的「東亞新秩序」の樹立といった抽象的なもの？
- 領土も賠償金も取らないという政府の基本方針？
- 日中戦争に賛成か反対かではなく、「この戦争は何なのか？」

7. 太平洋戦争とジャーナリズム：政府批判消える

- 昭16.12.8 日米開戦 紙面の変化
 - 大本営発表(陸軍報道部、海軍報道部) 内務省
 - 天気予報、外国ニュース、地震、生活情報が消える
 - 戦意高揚「軍神」軍国美談
 - 戦争拡大とともに部数急増:国民を欺く報道
- 消された記事 軍部・政府批判は、発禁、処罰
 - 安寧秩序を乱す・風俗を害する(新聞紙法23条)
 - 国策の遂行に重大なる支障を生ずる恐れのある報道の制限・禁止(新聞紙等掲載制限令)
- 統制団体 新聞聯盟(41)から日本新聞会(42)へ
 - 一県一紙体制へ

戦争下の新聞論調：戦争の目的に同調（誇張）、国民一致戦争完遂に邁進

1. 大東亜戦争の完遂 キーシンボルは解放と独立
 1. 新秩序と旧秩序(米英)の対立
 2. 植民地解放、大東亜共栄圏の確立を「聖戦」の完遂目的に
2. 政府・軍一体の国民指導
 1. 為政者への論旨でなく、国民に対して呼びかける
3. 東亜諸民族に対する訴えかけ
 1. 各民族の独立→日本軍に対する協力→大東亜戦争の勝利→東亜諸民族の繁栄 を繰り返し強調
 2. 日本なくして大東亜共栄圏なし＝皇国中心の理念

8. 見ざる、聞かざる、言わざる時代

➤ 東条首相を怒らす

➤ 昭18 中野正剛 「戦時宰相論」『朝日』(1)

➤ 昭19 新名丈夫 「竹槍では間に合はぬ」『毎日』(2)

➤ 木村栄文『記者たちの日米戦争』

➤ Bainbridge Review:ウッドワード記者

➤ 沖縄戦：1945/4~6

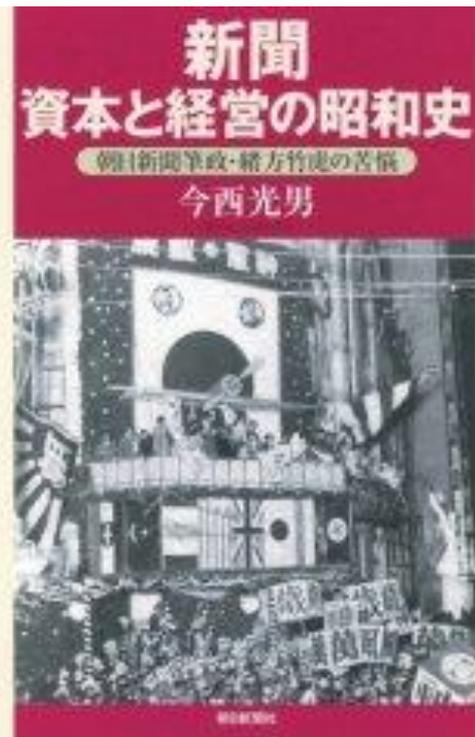
➤ 「沖縄県民斯ク戦ヘリ」

滅亡へ

- 1944: 東条から小磯内閣へ
- 戦争遂行変わらず: 神風特攻隊
- 学童疎開
- 本土空襲: 軍需から無差別攻撃、東京大空襲
- 沖縄戦: 1945/4-6 「沖縄県民斯ク戦エリ」
- ポツダム宣言7/26: 日本の無条件降伏を要求
- 日本は無視→原子爆弾の投下: 45/8/6, 8/9
- 国体の護持
- ソ連、対日宣戦布告(8/8)
- 終戦(8/15): 玉音放送
- 300万人の死
- 9/2 ミズーリー号 降伏調印

9. 覚えておきたい新聞人・言論人

- 村山龍平・上野理一
- 長谷川如是閑(はせがわ・によぜかん)：八虹筆禍事件
- 杉村楚人冠(すぎむら・そじんかん) 廣太郎
- 菊竹 淳(すなお) 六鼓-福岡毎日-5・15事件
- 木村栄文 『六鼓・菊竹 淳』
- 桐生悠々-信濃毎日：『他山の石』
- 新名丈夫-毎日：竹槍では間に合はぬ
- 緒方竹虎(朝日)



- YouTube - 226事件秘話 1/8

- http://www.youtube.com/watch?v=z_KG_j2mXQQ

- 終戦放送

- <http://www.youtube.com/watch?v=70OATd0sMvU&feature=related>